



「魂のオアシス！」（要旨）

詩篇42:1-2 説教者 原田憲夫

説教前賛美：21 讃美歌 132番 (1,2,5) 説教後賛美：新聖歌 340番 (1-3)

今週の聖句：ヨハネ福音書4:13-14

序

私たちは目に触れるもの、手に触れるものの中にしか現実の自分を見いだせない。けれども今、その現実の世界が脆(ろ)く頼りにならないことを今更ながら味わっている。物質的に満たされていると思っていた時には、忘れていたのかもしれない。戦争や流行病の苦難を経験してきた先人たちの過去の歴史を。

*まだSLが走っていた頃一心の泉が枯れ、喜びの水が湧き出なくなった子の話；

■「神への渇き」

聖書の人々は風土的な渇いた感覚を大切にした。渇きを、現代人が持っているような物質的・数量的な面からではなく、霊的・精神的な面から捉えていた。だから、心身ともに疲れ果てた時、神に向かって心を打ち明けた。詩篇42の信仰者のように。

鹿が谷川の流れを慕いあえぐように

神よ 私のたましいはあなたを慕いあえぎます。私のたましいは 神を

生ける神を求めて 渇いています。(1-2)

彼はイスラエルの北になる「ヨルダンとヘルモンの地、ミツアルの山」に囚われの身であった。周囲の人々は彼の信じる神を嘲り、侮り、彼は心身ともに荒野に、砂漠に一人放り出されたような孤独に打ちのめされていた。かつての喜び/幸いを思い起こしては、今の悲しみ/不幸を嘆いた。が、そんな最悪な状況の中で、唯一彼の魂を支えたのは、真実の神への希望だった。

彼は彼自身に「わがたましいよ」と呼びかける。→5節、11節。

■「魂のオアシス」

渇いた魂は、鹿が谷川の水を切なく求めるように、真実の神を慕い求める。

私たちも人生で味わう厳しい荒野、砂漠の中で、熱く渇き、また激しくその癒しを求める。

不思議だが、その荒野、砂漠のただ中に

「オアシス」はある。

荒野、砂漠の渇きを知る者だけが、魂の渇きの癒しを求め、癒されることを経験するのだ。(サハラ砂漠で生涯を過ごした人の言葉；)

では今日、「魂のオアシス」はどこにあるのか。魂の荒(サ)んだこの世界にある。あなたの居る、私の居るこの世界のただ中にある。

「神よ、あなたは私たちをあなたのために造られました。私たちの心は、あなたの中に憩うまで平安がないのです。」(アウグスティヌス)

主イエス・キリストは語る。

『この水を飲む人はみな、また渇きません。しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渇くことはありません。わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。』(ヨハネ4・13-14)

主イエス・キリストこそ「魂のオアシス」なのだ！

キリストは、十字架の上でご自分のいのちと引替に人の罪・過ち・汚れをすべて取り除き、赦し、清くし、今も人の魂の渇きを潤す「魂のオアシス」なのである。

■「招き」

*‘あの子’が二十歳になってからの話；

今、魂に渇きを覚えるあなたに必要なのは、「魂のオアシス」である。「魂のオアシス」であるキリストを呼び求め、心に迎えよう！キリストは渇いているあなたに「永遠のいのちの水」を与えることができる人生の主である。

さあ、「魂のオアシス」で癒され、永遠の希望をもって歩み出そう！Ω

(祈り)